

令和5年第1回市議会定例会質問者一覧表

(令和5年3月6日、7日)

代表質問者一覧表〔第1回市議会定例会 令和5年3月6日開議〕

質問日	令和5年3月6日(月)			質問方式	分割方式		
質問順位	1	会派名	自由民主党浜松	議席番号	31	氏名	戸田 誠
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 就任16年間の産業施策の総括について	<p>総務省の統計で昼夜間人口比率のデータが公表されており、本市の比率は99.3%となっている。市長は、産業施策に力を入れてきた。私は産業の活性化が収入増や人口増といったものにつながり、税収が上がることにより、子育て施策や福祉施策などへの対策費が生まれ、手厚い施策が可能になっていくと考えていたもので、産業施策については応援もしてきた。</p> <p>しかしながら、昼夜間人口比率だけを捉えると、まだまだ、花が咲いていないと感じている。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 市長が産業施策を打ってきたこの16年を、どう評価するのか伺う。</p> <p>(2) 今後の地域の産業振興への期待を伺う。</p>						鈴木市長
2 海外事例を施策に生かす今後の展開について	<p>イスラエル及びスペインへの海外視察で情報交換や意見交換を実施したことを受け、今後の施策にどう生かすかが重要であると考えます。</p> <p>そこで、どのような見地を広められたのか。また、今後の施策にどのように生かす考えがあるのか伺う。</p>						長田副市長
3 農業施策について	<p>ウクライナとロシアの紛争で、再認識した問題点が日本の食糧自給率である。本市は、農業産出額7位のポテンシャルがある。本市の農業の特徴を見ると、多品目で多様な農業が営まれている。農地の条件に目を向けると、山間地から平野まで幅広く、特に耕作条件がよい地域では、人・農地プランより集積・集約が行われ、効率的で「もうかる農業」が実践されているが、面積規模が小さく点在している農地や斜面地では借り手もなく、今後の農地の維持に不安を感じる。また、少子高齢化が進む中、農業に従事する人が減少及び高齢化しており、耕作放棄地が多くなっている。そのため、農地を維持する取組が必要である。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 条件が不利な農地でのスマート農業の導入推進について伺う。</p> <p>(2) 兼業農家及びシニア世代の農業参入への支援について伺う。</p>						清水農林水産担当部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
4 都市計画公園整備について	<p>公園整備の考え方として、令和3年11月議会では、「浜松市都市計画公園整備プログラムによる計画的な整備を進めていく。」との答弁があった。</p> <p>現在も公園整備は着実に進んでいると思うが、都市計画公園の中には、長期にわたって未着手の区域が多くあると感じている。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 都市計画公園の見直しをどのように考えているのか。現状の認識と今後の取組について、本市の考えを伺う。</p> <p>(2) 四ツ池公園の広大な区域が長期未着手の状態となっている。そこで、都市計画公園区域を見直す考えはないか伺う。また、存続させる場合は、いつ頃着手できる見込みか、本市の考えを伺う。</p>	奥井花みどり 担当部長
5 浜松市歴史的風致維持向上計画の着実な推進について	<p>浜松市歴史的風致維持向上計画は国から認定を受け、まもなく1年が経過する。市内の特色ある歴史的風致が12件取り上げられており、これらの歴史的風致の維持及び向上を図るため、歴史文化・景観・まちづくり・観光振興・地域活性化などの事業を推進するものである。計画期間は令和13年度までの10年間の設定である。</p> <p>歴史的風致維持向上計画は、地方創生の観点から、歴史的風致の維持・向上に対する国の支援を前面に打ち出しており、地方主体のまちづくりが可能となる法制度だと言われている。財源の問題などで、市単独では着手できなかった事業に対し、国の支援措置を活用することで、より幅広いまちづくり施策の展開が可能になると考えており、本市における「地方創生」の核になり得るものと考えている。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 認定後1年間の取組状況を伺う。</p> <p>(2) まちづくりの観点から、浜松市歴史的風致維持向上計画を生かした事業の進め方について伺う。</p>	井熊都市整備部長
6 教職員の資質向上について	<p>大河ドラマ「どうする家康」が始まっている。家康の名前が挙がると必ず出てくる武将の名前として、武田信玄が挙げられる。武田信玄の言葉として「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、あだは敵なり」がある。学校はデジタル化が進んだとしても、人材がなくてこそであり、人材育成が必要である。マニュアルは基本的なルールが示されたもので、マニュアルに沿って指導することにより、平準化された教育を受けることが可能である。しかしながら、過度にマニュアルに頼り過ぎると、マニュアルに書いていないことができ</p>	宮崎教育長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
7 子供の感性を育む 取組について	<p>ない指導となり、個性あふれる子供の育成にはならないと考える。マニュアルに頼り過ぎると突然の出来事に対応できない人に育ってしまわないか心配である。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 教職員も自由な発想の下、独自の指導が許容範囲の中で行われるべきと考えるが所感を伺う。</p> <p>(2) マニュアルだけに頼らない教職員を育てるべきと考えるが取組状況を伺う。</p> <p>「はままつ人づくり未来プラン」の教育理念が推進され、自分らしい感性が育まれることで、自分を大切にすることができ、社会へ出て生き抜くための自分らしさが生まれていくと考える。</p> <p>それには、机に向かって学習する座学だけでなく、五感を働かせた体験活動などが有効であると考えます。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 子供の感性を育むために、どのような教育活動を行っているのか伺う。</p> <p>(2) コロナ禍で体験活動などが難しい期間が続いたが、どのような工夫をしてきたのか伺う。</p>	宮崎教育長
8 子ども・子育て会議について	<p>子供・子育て施策は少子化が進む中において重要な施策であることから、より当事者等の声を反映させる仕組みが必要ではないかと考える。そして、その素案をつくる前に、行政に加え、有識者や当事者等にも会議に参加してもらい、まず意見を述べてもらった後に、行政として素案をつくるといったワンステップを付け加えて、丁寧に進めることが必要ではないかと考える。</p> <p>そこで、素案をつくる前に、行政・有識者・当事者等が参加する会議を開く考えがないか伺う。</p>	吉積こども家庭部長
9 業務量調査からの 業務改革について	<p>浜松市DX推進計画には、取組項目として、行政の効率化に関するものや、住民サービスの改善に対するものが掲げられている。</p> <p>これらはデジタルによる業務改革であるが、コニカミノルタ株式会社との連携による業務量調査から起因していると考えます。業務量調査の結果を踏まえると、デジタルを使用しなくても効率化できるものがあると考えており、デジタル以外の業務改革も行う必要があると考えます。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 業務量調査の結果から、デジタルを利用した業務改革と、デジタルを利用しない業務改革をどのように行っていくのか伺う。</p> <p>(2) 「DX推進計画」で「LGX推進に向けた組織・職員意識の変革」を掲げたが、これによりどのようなこ</p>	内藤デジタル・スマートシティ推進部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
10 デジタル化推進について	<p>とを期待しているのか伺う。</p> <p>少子高齢化が急速に進む中、各産業において生産性の向上が不可欠と考える。その方策の一つとして、デジタル化が重要となる。製造業においては、デジタル化への取組が進んでいると感じられるが、第一次産業では、進み具合が遅いように感じられる。デジタル・スマートシティ推進課が中心に各事業部と連携し、官民連携プラットフォームを有効に活用することがデジタル化推進に大きく寄与するものとする。</p> <p>そこで、農業・林業・建設業などの各産業のデジタル化を、官民連携プラットフォームを有効に活用することで、どのように推進させていくのかを伺う。</p>	山名副市長
11 施政方針について	<p>施政方針「都市経営の基本的考え方」が今までになり分量となっており、市長の思いが詰まっていると考える。</p> <p>市長は今期をもって勇退するとのことだが、今回の施政方針をどのような気持ちで書いたのか、その思いを伺う。</p>	鈴木市長